学校評価に関する「保護者アンケート」で寄せられた質問等への回答

平成２７年２月１０日　第十小学校長　泉　直樹

昨年末の保護者アンケートご協力ありがとうございました。アンケート結果は別紙（Ａ４版両面１枚）の集計表でお知らせします。（回収率８０％でした。）

ここでは、アンケートの欄外に、保護者の方々から寄せていただいた様々な声に応えるものです。

寄せていただいたものはなるべくその意味を失わないようにしながらまとめてみました。

今年度は、件数としては少なめでした。個別的な要望や疑問の割合が多かったように感じています。

学校としての回答は、説明や今後の取り組みや相談としての回答を行いました。回答では、どの質問にも丁寧に答えたつもりですが、個人名等の問題で、回答を控えさせて頂いたものが若干あります。また、ご意見については、ご意見として伺ったものもあります。ご了承ください。

１．いただいた激励から　（ありがとうございました。応援されると嬉しいものです。心の糧とさせていただき、今後とも努力していきます。）

・担任の先生が子供に自信をつけるような関わりをしてくださっている。子供は楽しく登校している。
・毎日楽しく過ごしています。ありがとうございます。
・授業、委員会、行事等意欲的に参加しています。先生に信頼と親しみをもっていると感じます。
・用意されるのは大変でしょうが、毎日の宿題で復習ができ、定着度が高まっています。
・担任の先生がよく見てくださっています。感謝しています。
・子供は算数教室が大好きで、先生にとても感謝しています。
・毎年のグラス替えが良かったと思います。友達の交流関係が豊かになりました。先生のおかげで、低学年の不安定な時期を乗り越えることができました。感謝しています。
・算数教室は大変有意義です。ありがたく思っています。
・上級生・下級生の交流の行事が充実し、全体の雰囲気が温かく感じます。
・子供は先生への絶対の信頼を寄せています。筋の通った指導をこれからもお願いします。
・子供の数が多いので大変だと思いますが、指導をよろしくお願いします。
・宿題の漢字の誤字をきちんと見直してくれるので、助かります。
・カードタッチシステムの導入は働く親たちにとても役立っている。

２　質問や要望等への回答

（Ｑ：保護者の記述内容（簡略化も有）　Ａ：学校回答）

（１）　学校経営について

Ｑ１・各行事を通して、どんなことを身に付けさせたいか、更に共通理解を深め、教育目標や方針に帰結できると良いのではと、思います。

Ａ１・同感です。各行事や教育活動を実施する時には、必ず、教育方針に乗っ取った、目指す児童像や目標を設定して計画・実行・評価をしています。特に評価では、目標に対してどうだったかを大切にしています。

今後ともご指摘のように取り組んで行きます。

Ｑ２・正門が自由に出入りでき、校舎へも自由に入れるので、子供の安全・安心な環境ではないと思います。

Ａ２　・まず３つの門の開閉に付いて説明します。３門とも、児童の登校後、遅刻者も考慮して８時５０分前後に閉門します。施錠はしません。下校時間の前に開門します。正門は、業者、配膳車等の出入り口となっていますが、使用者が開閉します。正門横には、人が一人通れる通用門があります。歩行者、自転車利用者が、閉門中利用します。

さて、ご心配の件ですが、学校は、その気になったらどこからでも入り出入りできます。心理的に入りにくくするための方法か現時点の対策の中心です。

・施錠はしなくても、開けにくくしてあり、大きな音がする。

・正門付近・南校舎の昇降口等には監視カメラを設置して、記録もしています。

・事務室でモニターもしています。

現時点で、費用面、人的配置等で可能なことは実施しています。

なお、間もなく、市内の取り組みはじめとして、十小学区に監視カメラ５台が設置される予定です。

Ｑ３　・放課後、校庭で遊んでいると意地悪してくる上級生がいるそうです。あえて、静観しています。ある程度は上下関係かと思っていますので。

Ａ３　・２学期に、放課後の校庭開放中に、上級生が下級生をいじめているとの苦情が２件ありました。

中学生の場合…事情があり、小学生とも遊ぶことは好ましいこともある（野球の技術を教えてくれる等）と考えていたのですが、今後は、小学生の上下学年の関係での関わりを深めたいと思います。今後中学生は小学校では遊ばない取り決めをしました。

高学年が関わっていた件については…双方から事情を聴きました。原因は、言葉です。

高学年が注意すると、或いは、危ないからあっちで遊べ、等と言うと、低学年が生意気な言葉で返す、つい、高学年も大きな声で対応する。この様な図式が見られました。高学年には、高学年らしい対応をする等の指導をしましたが、ご指摘の通りの上下関係の中での、低学年と高学年のマナーがあると思います。

結論として、Ｑ３を寄せていただいた方の考えを、もっと多くの保護者の方に理解していただきたいと思います。放課後の遊び等で気になることがありましたら、ご一報ください。一緒に考えたいと思います。子供達は、異年齢集団の中でもまれて自分の立場を考え、責任や行動の基準を作ります。高学年には、リーダー性発揮を求めて、学校では指導して行きます。

Ｑ４　・「書く」機会が減っているので作文や漢字練習帳などに力を入れて欲しいです。

学校全体で作文コンクールの参加や漢字検定を実施できればよいと思います。

Ａ４　・書くことは重視しています。書くことは、自分の考えを整理し明確にします。校内の研究でも取り組んでいます。書く力をつけるには、日記が有効と考えます。ご自分のお子さんに、日記を書くよう勧められてはどうでしょうか。日記を書くことは、日々の生活改善はもちろんのこと、文章力、語彙力の向上、そして読書へと向かって行き、とても有効な手段と思います。ただし、日記を毎日続ける事は相当の努力が必要です。個別の取り組みにならざるを得ません。

学校全体としてのコンクール等への応募は、立川の子に照準を当てていますので、特別の機会は考えていません。夏休み前に、様々な募集をおしらせしていますので、そちらで取り組んでくださ

い。漢字検定は全校で実施している学校も少しずつ出てきました。しかし、漢字の書き取りや読みの力は日々のドリルや通知表である程度分かります。現時点では、検定は費用面もあり、個々の取り組みと考えています。

２　教員の指導について

Ｑ１　・子供のことを担任に相談しづらい。子供は先生の反応を怖がっているので言わないでくれと言います。相談しにくい先生もどうかと思います。

Ａ１　・先生を苦手と思っている子、先生と合わない子・・・。残念ですが、時にはあります。児童理解も含め、関係づくりを図ります。

本来的に、教師は子供のことを考え、関わり、指導します。まずこのことを信じていただきたいと思います。子供は一般的に、悩み事があると、早く先生に知ってもらって、問題を解決して欲しいと願っていることの方が多いのも事実です。

相談しづらい原因を他に考えます。担任と保護者の意思疎通ができにくい。つまり、会う機会が少ない、無い。学校からの情報が無く、学級の様子や我が子のことが分からない。この様なこともあるかと思います。

そこで、２７年度からは、２学期が始まるまでに、全員の保護者の方との個人面談を担任が実施します。面識や意思疎通を図り、いろいろと話せる素地を作りたいと思います。

よろしくお願いいたします。情報公開にも努力していきます。

Ｑ２　・教員の言葉遣いが乱暴で、気になる。「愚かだね」とか。

Ａ２　・言葉一つを取り出すと乱暴と思えることは多くあります。「バカだね」愛情をもった言い方や軽蔑した言い方、更には愚弄した言い方にもなります。それはともかくとして、教師が子供の心に棘指す言い方はいけません。言語能力向上に取り組む本校としても問題です。

適切な言葉遣いに付いては、更に研鑽を積んで行きます。

Ｑ３　・声が小さく、内容が聞き取れない。決まった内容をこなすように見受けられる。

Ａ３　・授業時間ではないと考えますが。もし、そうであるなら、早急な改善をします。

もし、保護者会のような状況なら、苦手意識が先走ったかも知れません。大人である保護者の方から、応援の気持ちで言ってやってください。「先生、もっと大きな声でしゃべって。」って。よろしくお願いいたします。教師は期待に応えようと努力します。

Ｑ４　・もう少し、子供一人一人の違いを見て、指導して欲しい。

Ａ４　・児童理解に基づく指導が大切なことを教師は十分承知しています。

能力差による違いは、個別の指導に今力を入れている所です。性格の違いや社会性の違いともとれますが、基本的には、これも個人差を理解しての指導が大切です。

しかし、一律に「こうしなさい」と指導、命令することもあります。ものの善悪・命に関すること・人権等に関すること等です。日頃から、子供達に教師としての信念の発露（これこれは絶対許せないこと、等）も大切と、思っています。バランスのとれた指導に心がけます。

ご指摘の通り、児童理解を更に深めて、指導にあたりたいと考えます。

Ｑ５　・きちんと子供を叱ることをしてください。保護者のクレーム等怖がっていたら何もできません。

Ａ５　・教師がきちんと子供を叱っていない。恐れることなく教師の信念での判断として、叱るべき時はきっちりと叱って欲しい。このように理解して回答いたします。

叱れなくなった教師が増えている。よく言われます。また同じように、我が子を叱れなくなった親も多くなった。これも言われています。

きちんと叱ることを改めて考えます。

保護者のクレームを怖がっている、子供の反感を気にする。つまり、叱ったことで、保護者や子供の反感を避けている。気が滅入る。こんな状況にはなりたくない。このような考えが先に出てくるのも事実でしょう。

でも叱ります。叱る前に、その叱りを素直に受け止めてもらえる様な事前の下地作り、信頼関係の構築に努力したいと思います。これまででも努力しているつもりですが、改めて意識します。また、教師として日頃から信念や思いを語り、子供の行動基準作りをしていきたいと思います。つまり、「弱い者いじめは許さない、その場を見たら、厳しく叱る。」等の信念を２つ３つ言い続けることで、子供達は「あれは、やっちゃいけない」となって行きます。学校全体として取り組むことも有意義と思っています。

弱気にならないで、信念をもって指導して行きたいと思います。

Ｑ６　・学校（先生方）に、事案（危ない・いじめ等）を相談してもその後の対応がどうだったか、どの様に改善されたか、後日の報告が無い。大きな問題になりそうな時だけプリントが出る。

Ａ６　・相談時に、対応については話していると思います。その後の経過をお知らせする必要があると判断したときはしますが、一律に、特に全体にお知らせすることは少ないと思います。個別の問題を含んでいることがありますから。報告がないと思われる時は、「あのときの相談の内容はその後どうですか」等と聞いてください。取り組み中で余裕がなかったり、もう解決済みで忘れていたりすることもあると思われます。特に、重大事については、お聞きください。

何かあったら、気軽に問い合わせしたり、聞いたりできる関係を作って行きたいと思います。

３　その他

Ｑ１　・あいさつ指導（おはようございます・さようなら・ありがとう等）をしても、家庭と十小の基本方針が重ならないと、子供への定着は難しいと感じます。

Ａ１　おっしゃる通りです。

あいさつや言葉遣いの根本指導は、家庭だと思っています。あいさつ・遊び方・テレビやゲームの見過ぎややり過ぎ、等々、家庭で指導すべきことが学校に求められ、学校が引き受けなければならない時代になっています。

各ご家庭での基本的な子供のしつけとして、意識して取り組んでいただければ幸いです。

参考までに、東京都と青少年育成協会は、心の東京革命として以下を提案しています。

心の東京ルール～７つの呼びかけ～　まず、大人が意識と行動を変えよう

◯毎日きちんとあいさつさせよう　　◯他人の子供でも叱ろう

◯子供に手伝いをさせよう　　◯ねだる子供に我慢をさせよう

◯先人や目上の人を敬う心を育てよう　　◯体験の中で子供を鍛えよう

◯子供にその日のことを話させよう

また、
大人が子供に社会の基本的なルールを伝えて行くための評語
「こころの東京ルール～大人が子供の手本となろう～」を提案しています。上と似ていますが、

〇毎日きちんとあいさつさせよう　　〇良いことは褒め、悪いことは叱ろう
〇ねだる子供に我慢をさせよう　　〇先人や目上の人を敬う心を育てよう
〇体験の中で子供を鍛えよう

Ｑ２　・一部の保護者の要望を受け入れすぎていて、組織的対応がなされていないと思うことがある。
Ａ２　・学校の教育活動ならば、問題を感じますが、その様な状況は無いと考えています。
・ＰＴＡ活動の事でしょうか。それを前提として回答します。
様々な地域活動に参加して、加わって、はっきりした事があります。
ａ責任を感じて意欲的に参加して動く人。
ｂ人任せだが、協力できることは協力する。
ｃ所属会員だが、興味関心が無い人。
そして、ｂの人が多く、ａ．ｃは少ない。多くの組織活動に見られる傾向だと思います。
それぞれの立場で考えた行動が必要ですが、最も大切なことは、言うべき時には言う、自分の考えを出す、ことのように思います。このことができないと良い世の中にはなりませんし、改善も図れません。
まず、小さな組織の中で、実行していきましょう。
私が学生の頃、「社会科の勉強は何のためにするのか、それは、良い選挙民、良い被選挙民になるため」という一文を見付けた事がありました。極端な言い方だと思っていましたが、過去を知り、現在を分析し、国民の、国の、地域の未来を考える事は大切と思うようになりました。
脱線してしまいましたが、組織活動は各人が意見を出し合うことからはじめましょう。

Ｑ３・皆ＤＳゲームで遊んでいる。学校の方でも、ゲームについての危険性を子供達に教えて欲しい。
ＤＳゲームで遊ぶ子供達が多すぎる。
Ａ３・危機感を感じていらっしゃる様子が見受けられます。私も同じです。
ゲームのやり過ぎに対しての危機感や不安とは、
①興味関心（やりたい）だけの世界にどっぷりとはまり、大切な事がおろそかになる。
②ゲーム脳という言葉があります。冷静な判断が困難になる危険性の不安。
③身体的、精神的な面への悪影響等の不安
等々があります。
４年生以上の児童の調査でも１時間３０分以上ゲーム機を使っていると答える割合は 20%、加えて、１時間３０分以上のテレビ視聴時間の割合は 36.3 %となっています。必ずしも両者が重なるわけではありませんが、テレビやゲームに多くの時間を使っている子供が多いという傾向は感じられます
さて、ゲームの危険性についての指導ですが、買い与えた家庭の責任が第 1 です。なぜ買い与えたか?親としてノーとは言えなかったのか、その後の子供の成長に有効だったか。親としての反

省ばかりを私はもちました。

とは言っても、これだけ広まっていると、友達関係の中で我が家だけでのルール徹底は難しく家庭に任せていられない状況にもなって来ていると思います。ノーゲーム(テレビ)デーを設定する自治体も出てきました。

学校では、ゲームばかりにはまっていると、生活がだらしなくなる、勉強や手伝いも後まわし、健康にも良くない等と、自分を成長させる足手まといになることをこれからも指導していきます。やり過ぎはよくありません。

Ｑ４　・ＰＴＡ役員が選考に関して家庭を直接訪問し「お願いします・・・」は、互いにいやな気持ちになるのでは、この体質に学校からﾒｽ入れることはできないのでしょうか。

Ａ４　・状況の中で、精一杯の努力をしている方に、第３者を通じて横やりを入れる事は失礼だと思います。気持ちは分かります。当人に向かっては、言いにくいのだと思います。

近所の子供が夕方、近くの壁にボールを蹴っている。皮制のボールは結構大きな音がします。うるさいと思っていてもなかなか注意ができない。学校に、注意して欲しいと電話が来る。これに類した事は多くあります。注意がしづらい、意見が言いにくい世の中です。

ご質問の件についてですが、

自助作用を発揮することの大切さを皆で共有し、改善の意見や困っていることを学級代表にまずお話することからはじめることがよいと思います。役員選出に苦慮されていることは承知しています。役員の負担軽減を含めて考える時期だとも認識しています。次年度の役員は、立川市の小学校ＰＴＡ連合の会長を兼務することになりますので、早急な改革は難しいかも知れません。会員のみなさんで、知恵を絞り改革改善を図って行きましょう。（終）

３年間の感想

この方式で回答して３年目に入りました。

・学校が汚い…という意見が多くありましたが、今年はありませんでした。学校側の努力が認められて嬉しい気がします。

・毎年、激励も多くあり、気持ちを強くしていますし、学校全体を見ての意見や共に連携して取り組む姿勢にもありがたさを感じています。

・毎年お願いしていることですが、「先生がそんなことを言ったの？したの？」等の疑問がありましたら、なるべく早く確認してください。子供の話で舌足らずや、誤解もあると思われます。
早い段階でしたら、話せばわかり合える事は多いと思います。
＊言いにくい状況でしたら、学級代表さんに相談ください。きっと力になっていただけると思います。学校も聴く耳を持って冷静に対応したいと考えています。

・学級の保護者間での気軽に話し合える、相談し会える状況づくり、いわゆるお母さん同士の友達関係の構築が今は非常に大切と思います。緊急情報の伝達、子供の問題の相談、進路の相談等がスムーズに行えます。保護者会等の工夫をして、これらにも取り組みたいと思います。